

## ● 本自己点検・評価の目的

- ・本報告書において実施した教育・研究に係る自己点検・評価は、教育研究に係る状況について点検・評価し、それに基づいた改善を行うものとして本研究科が独自に実施しているものである。
- ・本報告書では、令和2年度から令和6年度までの教育研究に係る状況について本研究科が行った自己点検・評価の結果を第1部として取りまとめ、その資料を第2部としてまとめた。

### 自己点検・評価の実施方法

- ・評価対象期間：令和2年から令和6年度
- ・評価項目：教育・研究ともに、活動及び成果の状況ごとに分析を行った。

### 現況調査表の項目一覧表

区分	分析項目	記載項目
教育	(1) 教育活動の状況	1.1 学位授与方針
		1.2 教育課程方針
		1.3 教育課程の編成、授業科目の内容
		1.4 授業形態、学習指導法
		1.5 履修指導、支援
		1.6 成績評価
		1.7 卒業判定
		1.8 学生の受入
		1.9 教育の国際性
		1.10 地域連携による教育活動
		1.11 教育の質の保証・向上
		1.12 学際的教育の推進
	(2) 教育成果の状況	2.1 卒業率、資格取得等
		2.2 就職、進学
		2.3 卒業時の学生からの意見聴取
		2.4 卒業生からの意見聴取
		2.5 就職先等からの意見聴取
研究	(1) 研究活動の状況	1.1 研究の実施体制及び支援・推進体制
		1.2 研究活動に関する施策／研究活動の質の向上
		1.3 論文・著書・特許・学会発表など
		1.4 研究資金
		1.5 地域連携による研究活動
		1.6 国際的な連携による研究活動
		1.7 研究成果の発信／研究資料等の共同利用
		1.8 総合的領域の振興
		1.9 学術コミュニティへの貢献
	(2) 研究成果の状況	2.1. 研究業績

- ・なお、記載項目は、当該記載項目を分析するに当たり必要と認められる「基本的な記載事項」と、優れた取組やそれらの成果を記述した「評価対象期間に係る特記事項」から構成し、「基本的な記載事項」の分析は根拠資料・データで行った。

## ・判定

研究科の目的に照らして、取組や活動、成果の状況がどの程度の質にあるのか、第3期中期目標期間の教育研究評価との比較も含め、分析項目ごとに下記区分により判定した。

判定区分	判断基準
S 特筆すべき高い質にある	学部・研究科等の（教育／研究）上の目的に照らして、取組や活動、成果の状況が非常に優れていると判断される場合
A 高い質にある	学部・研究科等の（教育／研究）上の目的に照らして、取組や活動、成果の状況が優れていると判断される場合
B 相応の質にある	学部・研究科等の（教育／研究）上の目的に照らして、取組や活動、成果の状況が相応であると判断される場合
C 質の向上が求められる	それぞれの学部・研究科等の（教育／研究）上の目的に照らして、取組や活動、成果の状況が不十分であると判断される場合